

## 第2回 こんぜの里周辺施設のあり方検討委員会 議事要旨

日 時	令和5年2月15日（水） 午後1時30分～	
場 所	栗東市役所2階 第1会議室	
出席者	【委員】	高橋 卓也 滋賀県立大学 環境科学部 教授 加藤 恵里 滋賀県立大学講師 澤 幸司 金勝生産森林組合より推薦 宮城 定右衛門 明日の走井を考える会より推薦 玉木 圭介 滋賀南部森林組合より推薦 田中 義信 一般社団法人栗東市観光協会より推薦 吉永 義則 市民代表
	【事務局】	
欠席者	【委員】	－
次 第	1. 開会 2. あいさつ 3. 報告事項 (1) こんぜの里周辺エリアに関する追加分析について (2) 民間事業者を対象としたサウンディング調査に関する中間報告 4. 協議事項 (1) サウンディング調査を踏まえたこんぜの里周辺エリアの方向性について 5. その他 (1) 連絡事項 (2) 次回の会議日程について 6. 閉会	

### 1. 開会

### 2. あいさつ

- ・内藤部長によるあいさつを行った。

### 3. 報告事項

- (1) こんぜの里周辺エリアに関する追加分析について
- (2) 民間事業者を対象としたサウンディング調査に関する中間報告
  - ・事務局より資料説明を行い、各報告事項に関する現状整理に関する委員の意見を頂戴した。
  - ・以下、主な意見。

宮城委員 : 事業者ヒアリングに関して、どのような業種を対象としているのか。

事務局 : 今回サウンディング調査をさせていただきました事業者様については、合宿研修施設、アウトドア・キャンプ、開発事業者、観光事業者等の本事業に関連する事業さんを対象としている。

- 高橋委員長：民間事業者間での競争もあるなかで、うまく本音を聞き出せているのか。
- また、人流統計データに関して、2020年11月を対象とした分析では甲賀市からの来訪が多いということがあったが、2022年11月を対象とした分析ではどのようなになったのか。
- 事務局：サウンディングは受託事業者が実施しており、基本的には市が同席しない形で、実施しているため、本音をお伺いできているのではないかとということで認識はしている。また、事業を実施するための課題と事業の可能性の両面から伺っており、実際に多くの課題も頂いており、今後課題を解決することで事業者の関心も高まると考えている。また、この段階のサウンディングなので、あくまでもあり方検討、構想という段階ではあるが、アイデアもいくつか頂けた。
- 事務局：また、人流統計データについて、2022年11月の結果についても同じように甲賀市からの来訪が一番多いという結果となった。ただ、今回触れさせていただいていないのは、甲賀市からの来訪者さんが多いというのは1つ結果として受け入れるのですが、市内の直前直後の立寄りとして、金勝寺や栗東のトレセン等の箇所も多いというところから、こちらとの連携、つながりを重視していったらどうかという書き方にさせていただいている。
- 市長：いつもお世話になっております。栗東市長の竹村でございます。ちょうど今時間ができましたので少し顔を出させていただきました。山のあり方検討委員会ということで、平素は皆様におきましてはさまざまな観点でご示唆、またいろいろご助言をいただいておりますこと、感謝申し上げます。感謝申し上げます。
- 既に何度か議論していただいているかと思いますが、私自身のこの政策の中で、こんぜの山というのは本当に大きな柱と位置づけておりますので、その中でどんなことが今後この山の中でできるのかというのを幅広くご議論いただいて、栗東が1つ弱みでもあります交流人口の増加に向けて、そしてまたこのこんぜの山を活性化することによってさまざまなインフラも進めていけるようなものにも寄与することだと思っておりますので、どうぞ皆さんの忌憚のないご意見をいただきながら本会議が有意義なものになりますことをお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。
- 田中委員：民間事業者を対象としたサウンディング調査に関する中間報告に関して、想定する提供サービスの中で、「市として事業者に何をしてほしいのかを明確にする必要がある」という文言があるが、サウンディング調査の中で、こんぜの周辺施設のあり方を検討していることはよいと考えられるが、短絡的にいろいろな民間事業者を選定し、その事業者とともに施設の売却等の検討に繋がってくると考えられるが、市の考えは伝えているのか。
- 事務局：サウンディングに際して事業概要書を添付しており、こんぜの里周辺エリアに関する市としての考えを示した上でご意見をいただいている。
- 田中委員：市の考え方はどのように決まっているのか。
- 事務局：本業務の受託事業者も含めて、栗東市としての山のあり方を検討している。特に、

民間交流の増加といった大きな方針、方向性の中で、サウンディング調査を行っている。

田中委員 : サウンディング調査としては、観光に関するこんぜの里のあり方について検討されているが、施設だけのことを考えるのではなくて、地域振興の視点から、民間事業者が各施設を譲渡することになったとしても、持続的に各施設の機能を維持するためには、行政もしくは地元が絡む必要があると考えられる。そのような視点からすると、今回の調査全体は視点が狭いという感じがある。

#### 4. 協議事項

(1) サウンディング調査を踏まえたこんぜの里周辺エリアの方向性について

- ・事務局より資料説明を行い、サウンディング調査を踏まえたこんぜの里周辺エリアの方向性に関する委員の意見を頂戴した。

- ・以下、主な意見。

高橋委員長 : 今回の方向性についてというのは、サウンディング調査をもとにして、それで原案的なものをいただいた。ぜひ積極的に忌憚のないご意見を出していただければと思う。

澤委員 : 今回のサウンディング調査の結果を踏まえると民間事業者による事業は厳しいと考えられる。ポテンシャルは高いが、観光資源が少ない、また規模も思ったより小さいという意見が出されている。ただ、官民連携による方法しかないと考えている。ただ、施設の老朽化もあるため官側として施設を新しくし、民側に指定管理という形で貸し出す場合、規制・条例等の縛りによって民間事業者が力を出し切れていないという現実がある。このあたりはクリアしなければいけない。実際に事業者からも意見として出されている。そのため、この施設を民間にどういう形で民間に渡すのか、手法を考えないといけないと考えられる。

フォレストアドベンチャーは現在、森の未来館を指定管理で運営管理しているが、条例の縛りにより、力を出し切れていないという意見も聞いている。今の枠を超えたいという事業者の思いもあるため、今年3月に新たな法人を立ち上げてビジネスに結びつけていきたいということを伺っている。新たな事業として、林内を自転車で行くという事業ももう間もなく開始の予定である。このように、民間事業者自体は意欲を持っており、このこと自体がこのエリアのポテンシャルが高いと理解している。官がいかんここを整備していただいて、それを民間がどういう形で事業展開していくかということがカギになるだろうと思う。このあたりは市の規制・条例等もあると思われるが、そういう方向性で行かざるを得ないと考えている。

市長 : 事業者からの意見として、アクセスが比較的良い、豊かな自然環境が魅力となるとの意見が出されている一方で、こんぜ周辺エリア自体には特徴がない(魅力がない)との記載がある。

事務局 : ご指摘の通り、立地や豊かな自然環境、ポテンシャルが高いというご意見と、課題としては特筆したものがないという課題があるというご意見をいただいている。要は、こんぜの里周辺エリアに特徴がないというのは、他の同様の地域との差別化が

できていないといった趣旨である。今回のサウンディング調査において、民間事業としての事業展開についても質問させて頂いているが、やはり規制の有無に関わらず、今回の対象施設（4施設）の立地状況等をふまえると、一体で管理運営していくというところも難しいといったご意見はいただいている。

田中委員：市街地からの距離とか高速道路からの距離というのは他の地域と比較しても圧倒的に近い。我々としては圧倒的なポテンシャルがあると思っている。そのため、資料のとりまとめの仕方としてもその辺りを意識してほしい。

高橋委員長：まとめ方をどうするのかということはあるが、単に市街地、高速道路からの距離が近いだけでは人が来ない（実際に来ていない）という状態であるということが重要であるように思われる。何か工夫が必要だし、民間事業者としても、市に払ってまで施設を運営させてほしいということにはならない。そのため、こんぜの里周辺エリアの方向性どそうするのかという視点でも意見が頂きたい。

田中委員：それは理解したが、ここで方向性を出すのだからこそ、もう少し他の地域との違いに関する情報が欲しい。

高橋委員長：多くの方のご意見を聞いたほうがいいと思うので、他の方はご意見いかがでしょうか。

宮城委員：行政として様々な規制がある中で、本気で施設を手放す気があるのか。本当に民間事業者売却し、あとは全部民間に任すということになるのか。民間事業者としても、後から様々な制約が出るようであれば、事業自体が悪い方向に行くように思われる。

事務局：市としては各施設の役割も踏まえ、これまで指定管理でお願いしている状況であるが、行政としての役割は一定終わりではないかと考えている。また、行政が指定管理をしていたら限界があるため、委託費を払わなくても民間事業者が自主運営して何とか魅力ある形でやって頂きたいと考えている。しかし、果たして本当にできるのかどうかというところをしっかりと方向性を出して、民間事業者にやって頂くためにはどうしなければならないのかという方向性も出していきたいと考えている。

市長：「民間事業としては法的制約が厳しいので出店などは考えられない」といった意見も出されているが、市による規制緩和により民間の動きを助長できるようなものであれば、市としては積極的にこの辺の緩和はするべきだろうと考えている。とりわけ今の制限の中で考えると民間さんもなかなかやりにくいことも多いと思われる。

宮城委員：そういうことで民間事業者にお願いするというのは大事ですが、民間事業者が倒産したときにどうするのか。まずその辺の管理の仕方について、行政としてある程度発言権を保たれるようにする必要があると考えている。

加藤委員：方向性について、サウンディング調査でも馬という話が出たということだったが、特にこんぜの里周辺エリアで馬となると、山や森を活かしつつ馬を組み合わせ、ほかとの差別化ができるのかなと思うので、実際山とか森とか施設周辺で使える部分で馬が入っていけるようなエリアができるのか、トレッキングに馬を使った観光のイメージができそうなのか考えられればよいのではないかと。

- 吉永委員 :あまり専門的なことはわからないが、山に囲まれて、清流があり、見晴らしがよく、星空がきれいという場所は他にはない。これらの魅力として発信していくためには、展望をよくするための投資（間伐等）は必要だと考えられる。
- 田中委員 :観光協会独自で各団体と連携している。東京にも行き、我々独自の考え方の中で、栗東の魅力を発信している。様々なメニューを我々自身が考えて山の魅力を発信しようということで現在実践している資料を参考資料としてお配りさせていただいた。
- 宮城委員 :馬車に乗ってこんぜの里からハイキングできるというコースを作れば1つの大きな宣伝効果があるのではないか。子どもたちも非常に喜んでハイキング、山登りをするのはないか。観光協会として是非実施してもらいたいと思っている。これから民間事業者に譲渡するというのも1つの方法かも知れないけれども、今指定管理を受けている各事業者がそういうことを考えてやってもらえたら大きなプラスになるのではないかと思う。
- 高橋委員長 :様々な方向性が出てきたところであるが、この委員会としては、将来像としてどういうところを目指したいかというところで、ある程度大きな柱というか、選択肢的なものを委員会として出せたらいいのではないかと思っている。
- 事務局 :施設を設置した経過として、地域の雇用促進という側面がかなり強いところがある。そのため、今後民間事業者に委ねていきたいという思いはあるのですが、地域での雇用を守られるような形で取り組みを進め行きたいと考えている。ま
- 澤委員 :前回の委員会でも申し上げたように、核となる施設をしないといけない。核となる施設は何かというと宿泊施設であると考えられる。いろいろな多面的な目的を有するお客様のニーズに応えられる施設が民間事業者単独でできるかという、行政が覚悟を持って、各施設を1つにまとめられるのか。行政として施設の老朽化に対して更新していく姿勢なのかどうか。現状のまま、民間事業者に引き渡すのは困難と考えている。
- 高橋委員長 :本委員会としては、今後候補となる民間事業者への投げかけのためのいくつかの方向性に関する選択肢を示すということになるのではないかと考えている。  
1つのアイデアとしては、何らかの特色を持った民間事業者主導の投資。そのため、行政として規制緩和をする。  
もう1つの方向性としては、着地型で地域が主体となって実施するということが考えられる。その場合は、資金調達の工夫が必要かと考えられる。  
最後の方向性としては、現状のやり方を改善していくという方向性である。
- 宮城委員 :例えば平谷球場を、公園化し、自由に寄れるようなスペースにするといった事業を民間事業者にお願いできないのか。若者が希望を持って栗東に住みたいというようなことになるように、自然の中や山の中を散策ができるような状況にできないか。
- 高橋委員長 :ご指摘の通り、外から人を呼んでくるということに集中していたので、地域住民が利用する視点がなかったように思われる。山の中の散策とか、そういうのもできてくるのではないか。
- 吉永委員 :ホースパークプロジェクトというのがあるが、いつごろの予定ですか。
- 事務局 :場所については、今のところ栗東健康運動公園、国際情報高校の南側に位置する健

康運動公園である。約9haの面積があり、その中の一部にJRAの引退馬を活用して、そこに行けばいつでも馬に触れられる、馬のお世話ができる、乗れる、こういうものを健康運動公園の中に一部機能として取り入れていきたい。実際に5年ぐらいかけて整備する予定である。

先ほども山の中に馬を走らせたかどうかというご意見も出されているが、現状では様々な課題があるが、行政として課題を整理し、保安林の中に馬が走れるようなコースを作れば、非常に乗る人も楽しいし、面白い探検エリアを作れると思われる。これらを一から行政がやろうとすると大変であるため、民間事業者に委ねていきたいと考えている。

田中委員：民間委託するということが自体は問題ないが、地域住民が絡んでくることは大事なので、その点を押さえておかなければいけないのではないかと。行政よりも地域が絡むということを残しながらやるのが重要と考えられる。

高橋委員長：総括として、地元でずっとこんぜの山に関わってこられた方々の希望・要望が出てきたため、これらを踏まえ、方向性として複数案併記で次回の会議ではまとめたいただきたいと考えている。

## 5. その他

(1) 次回の会議日程について

(2) 連絡事項

- ・事務局より次回の策定委員会の予定について説明を行った。

## 6. 閉会